

## 要 約

### 第14回市民ふれあいトーク―地域力を活かすまちづくり―

日時 平成22年7月4日 10:30~12:00

場所 玉島東公民館

#### 《市長》

今日はお忙しい中「市民ふれあいトーク」にお集まり下さいまして、誠にありがとうございます。一時間半の中で最初に私の方から玉島の地区に関して思っていること、市の施策で進んでいることなどにつきまして少しご報告をさせていただきます。その後皆様から今から申し上げることなどに対するお話を聞かせていただければありがたいと思っておりますので、よろしくお願い致します。

つい先週、玉島の新しい児童館が開所しました。昭和45年にオープンをしてから、もう40年以上経っておりまして、非常に古くなっておりまして、使い勝手が悪いこともありまして、地域の皆様からずっとご要望をいただいております。私どもとしてはこれまでのものに比べますと使い勝手が随分よくなっていると思っております。今、環境の時代ですので太陽光発電なども取り入れました。

また、玉島地区の中でいくつかの大きな事業が進んでいます。一番大きいものといえば、玉島の新しい市民交流センターです。文化センターの横の公民館や公園の所を始めとする地域で、新しく再開発が進み始めて、公園の所など取り壊し作業をやっていると思っております。これまで、建物の使い勝手をどう良くしていくか、地域のみなさんにお話を伺いまして、玉島市民交流センターの新築作業を今、行っている所です。平成23年度になんとか工事を終えまして、オープンが24年度からできるように作業をしている所です。この玉島市民交流センターは、玉島の文化の発信の基地で、支所からも非常に近く、玉島の今の時代の文化を発信していただけるような場所になってもらいたいと思っております。公園と公民館の施設の合築をするわけですが、一番みなさんに使って頂きやすい所に、玉島の大きな特徴の一つでありますお茶の施設を置いた所が、他の地区の施設と特徴が違う所だと思っております。玉島は大変お茶の文化が盛んで、良寛茶会を始めとして地域のみなさまにはずっとお茶の文化が根付いているということがあります。これまでの玉島文化センターには、入って右の奥の方にお茶室があるわけですが、使い勝手が悪いことや、新しい施設ができたならもっといいものにならないかという話をずっといただいておりますので、今度出来る市民交流センターの中では、お茶室に違って頂きやすいような形のものを大きくとっております。それから、市議会の皆様からも玉島の地域の誇る、池田遙郵さん、坂田一男さんの二名の方の顕彰をもっとできないかとずっと言っていたいただいております。なかなか独立の建物を建てるのが難しかったのですが、市民交流センターの建設の機会に合築をすることになり、顕彰をする場所を設けさせていただいていることが一つ大きくあります。歴史民俗海洋資料館も、その前の所に芝生の広場を作りまして、今の児童館の横の所から新しい玉島交流センターの方に移るようになります。武道館につきましても、すぐ横に建物を建てまして、玉島のみなさまが使って頂きやすいようにと考えている所です。今年に今ある建物を取壊し、来年度に工事をして平成24年度にはオープンしていければと思っております。それからこの近くの施設となりますと、これまで堀貫線の工事がずっとかかっております。地域のみなさまにご協力をいただきまして進めている所ですが、何とか最終段階に近づいていまして、そんなに遠くない時期に全線が開通できるのではな

いかと思っています。それから今、玉島の柏島のポンプ場の所の港の公園を計画している所でございます。時間がかかっておりますが、もう1年か2年ほどの間にはなんとかできるのではないかと考えております。

それから、溜川の上流と下流の浸水の被害が出ていたということで港水門の所の工事を、洪水対策と港からの水の対策ということで県との間でずっと話をしてきた所でございます。上流の水門ができておりますので、ずっと使っていたいた歴史的な下流の水門の所を取りまして、港の浸水対策ができるような新しい施設を今、県との間で進めている所があります。

大きなものの考え方といたしまして、玉島の文化の発信、玉島の地区に人々が来て頂きやすいようにどうすればいいか地域のみなさんと一緒に考え、お話を伺って参りました。商店街の活性化、玉島の通町、新町、仲買町、羽黒神社を中心とする地域に、このまちなみ保存地区として指定されているわけでございます。この地区にもっと人が来てもらいたいということで、もっと歩きやすいような舗装にしたり、外から人が来られるにあたって玉島の地区がわかりやすいようにできないかと今、一生懸命やっている所です。倉敷市として、羽黒神社を中心とする地域の道路をまちなみに沿うような形でわかりやすい舗装に直すことを昨年、今年、来年とかけてやっている所です。それからこの玉島の地域だけでなく、倉敷市全体の文化の誇りであります、700年以上前からある重要無形の民俗文化財であります「乙島祭り」は、本当に素晴らしく、特色があり、迫力があるすごいお祭りだと思っています。このお祭りがもっと市内の多くの人に知っていただけないか、市外からもっと人に見に来てもらえないかといつも思っています。また、児島の鴻八幡宮のお祭りが同じように重要無形の民俗文化財になっておりますので、このお祭りも合わせて倉敷市の素晴らしいこの歴史を引き継いでいるお祭りが多くの人に知っていただけないかと思っています。各地域のことについて今進んでおりますことについて少しご報告をさせていただきました。

最後に、市内の大学の講座をわかっていただきやすいようにお手元にお配りをしておりますが、倉敷市には岡山県内でも多くの大学がありまして、10個の大学が倉敷市内に存在しております。大学、職業能力開発大学校、そして短期大学。玉島には作陽大学、音楽短期大学、そして職業能力開発大学校があります。多くの人にこの大学の魅力を知って頂きたいということで、この度大学の講座を一同に会しまして大学連携講座として今度の7月号の「広報くらしき」でも巻頭で5ページで取り上げております。子どもさんから大人の方まで興味をもっていただけるようなものにしていきたいと思っておりますので、どうぞ宜しくお願い致します。それでは今から一時間少々でございますけれども、よろしくお願い致します。

#### 《参加者 A さん》

高齢者でいつまでも安心して地域で暮らしていくために、地域で支えあう仕組みとか地域が抱える問題の把握、共有化などについて考えておりますが、第2福田小学校校区で、小地域ケア会議というのが昨年から実施されたんです。そこの構成員というのが民生委員さん、愛育委員さん、町内会長さん、栄養士さん、社協、保健士さん、高齢者支援センターというような20数名の方がおられます。このケア会議では、地域の方々が、向こう三軒両隣に声をかけて、元気でおるかなあという取り組みをしております。特に一人暮らし

の高齢者や老老介護の人には緊急連絡カードを作って、冷蔵庫のドアポケットへの設置を考えて実施をしている所です。冷蔵庫のポケットに入れる際にビニール袋に入れたり、「冷蔵庫に入っているよ」というシールを貼って設置したり、それには経費が少しかかるんです。この会議が住民主体ですので、経費がどこからも出てこないで、町内によっては町内会で負担する所もありますが、民生委員さんが負担することもありますし、非常に困っておりますので、統一するということで、市からもご援助をお願いしたいなと思っております。倉敷市には63の小学校がございますが、この小地域ケア会議の設置が非常に進んでないとお聞きしております。これは住民主体の会議ですが、私たちは今までに企画や立案に非常に不慣れで、住民がそのようなことをあまりやっていないということがございます。市の方で小地域ケア会議についてマニュアルを作成してもらったらどうでしょうか。そうすれば倉敷市全部の小学校区で小地域ケア会議ができるんじゃないかと。それから介護予防事業で「寿命のびーる」とか、運動をさせていただける会議とか、ストレッチや筋力トレーニングを健康福祉プラザでやっておりますが、そこに参加したいと申し込んでも15人とか30人とか制限がありまして、抽選でなかなか入れない。運動ですから会場を広くして多くの方が参加して継続できるようにするのが必要じゃないかなと思っております。その2点をお願いしたいと思います。

#### 《市長》

小地域のケア会議のことで、地域のみなさんや民生委員さんを始めとして係っていただいて、まだ市内の中でも設置が進んでいない所が多いとも伺っております。ただこの会議の目的、また重要な所は最初に言って頂いたように地域でお年寄りの方たちが一人にならないよう、もっと地域で助け合うという点が重要な所だと思います。私の方も、地域によって進んでいる所と進んでいない所があるというのが今日分かりましたので、担当の部局の者たちとその対策や状況についてこれから検討したいと思います。この場でいろいろお返事できなくて申し訳ないんですけども、しっかり検討していきたいと思っております。それから健康福祉プラザの講座になかなか入れないことは、もっと何か改善できないものかをよく検討させていただきたいと思っております。

#### 《参加者Bさん》

調理が困難な在宅の一人暮らしの高齢者に対する給食サービスについて、弁当を配達して安否も確認できる制度で、一食昼食のみ350円、夕食は同じ値段ではできないということで650円で市の方が配っていますが、これを夕食も毎日350円というわけにはいかないのでしょうか。チボリ公園の用地の買収もいいんですが、一人暮らしの老人の方は皆さん非常に食事に困っているということで昼食だけでなく、夕食もできたら350円にしていきたい。

それから、日常生活用具の給付について、一人暮らしの高齢者に電磁調理器一台、電子レンジ、ガス漏れの報知器、火災警報機、自動消火器などを貸与できる制度があると聞いていますので、どこへ本人が申請すれば貸与してもらえるのかお聞かせ願いたい。あと緊急の通報装置の設置について、一人暮らしの高齢者への、緊急事態が発生した場合の迅速な対応ということで、日常生活における不安感の解消をはかるために、社会福祉事務所へ申請すればつけていただけると聞いていますが、本人が届出をしないとできないのか、他

の人でもできるのかどうか。

もうひとつ、子どもを含めて市民が安心安全なまちづくりのために、倉敷市として警察は抜いてどのような対応策を今までやっているのか、今後どう取り組んでいくのかをお聞かせいただければと。

《市長》

まず、一人暮らしのご高齢の方の給食の弁当配達サービスでございます。昨年までは、一週間に5日でした。自分でなかなか調理できないというのと、安否確認という面も含めて行っているわけですが、今年度からプラス2回をしまして、一週間に7回になりました。平成22年度の市の予算を作る時に、各福祉部局の方みんなで検討をして、市民のみなさんからこういうサービスをもっと手厚くしてもらいたいという声いろいろ上がってきました。局の中でも子どもさんのサービスから昼食配達サービスが重要だということいろいろ上げてくれるわけです。この中で今の5回の配達サービスの拡大をしてもらいたいという声が非常に強いということでこの度、7回にしたわけです。予算もかなりかかっておりまして、もちろん倉敷市も予算が許すようになってくれば、拡大ができればと思うんですけども、今、市の大きな政策の方向として3つ、「子育てするなら倉敷で」、「安心して暮らせるまち」、「個性と魅力を伸ばすまち」と3つの方向性でやっております。いつも最初に私が「子育てするなら倉敷で」と言うもので、年配の人は二番目なのかと言われることもありまして、そんなことは決してないんです。ということで、この政策であったり、特別養護老人ホーム、介護付有料老人ホーム、小規模多機能サービス、その地域で昼夜困ったときにそこに行けるサービスの拡大の要望が非常に高いわけですが、これらの中で倉敷市の取り組みとしてどこをやっていくかを今、お金が決まっている中で考えている状況であります。今年は何とか7回にできましたが、すぐに夕食もということは難しいかとは思いますが、方向性としては、5回を7回にすることによって回数を増やしたことだけではなくて、見守りの面の効果や、そのサービスがどう利用していただいているかをよく見てから拡大をするなり、やはり他のサービスが必要なんじゃないかと考えることが必要だと思っています。選択肢の一つにはもちろん昼だけではなくて、朝も夜もだとは思いますが、まだそこまでは行っていない状況ですが、要望が高いことが良く分かりました。

日常生活用具の給付ですけど、これも年代によって対象物が変わってきています。時代によって必要なものは変わってくるので、暖めのための電子レンジを追加してほしいということが出てきたので今、それが加わっている所です。ガス漏れ報知器についての手続きは基本的には、その地域で民生委員さんとよくご相談をいただいてやっていただいていると思うんですが、大変申し訳ありませんが間違ったことを言うとはよくないので、今度ちょっと調べてご回答申し上げます。それから最後の、子どもを含めての市民が安心して暮らせるまちづくりについて、大きくは高齢者の安心の部分、それから子どもたちが安心して学校に行ってもらえるような環境を作ること、それからもう一つ災害や防災の面で、安心だということが非常に大切であると思っています。子どもさんを含めての町の安全ということでは地域の皆さまに毎朝、町に立って子どもさんの通学を見守っていただいて大変有難いと思っています。一方で一つの大きな課題になっているのは、学校の中で最近市議会などでも言われておりますが、子どもの危険というわけではないんですけども、暴れたり、その子どもと家庭の中での状況が非常に難しく問題を起こしたりということが多く

なっていることを教育委員会から聞いております。そこをなんとかしたいと思っています。一つには警察のOBの方の知恵を借りるのは一つ必要かなと思っています。今年から教育委員会に警察のOBの方に来ていただいて、アドバイスを頂くようにしたり、子どもさんたちが学校で授業がわかりやすいようにしたり、そして今いろいろな我慢が出来なくて教室から飛び出してしまう子供さんが随分増えておりますが、そういう子どもさんに支援員の先生が付いてもらえることを今、県と一緒にやっておりますし、なるべく少人数の対応ができないかということをやっています。これは私の一つの公約でもあったんですけども、特に小学校一年生の時分にしっかりとした対応をしているかないかでその子どもさんが、二年以降でますます集中力がなくなって教室を飛び出したりすることが多くなるので、一年の時に人数が多いクラスには先生に二人付いてもらうことを一年間やっています。そういうことも含めて学校、地域、そして高齢者の安全を全般に考えている状況です。なかなか明確な回答じゃなくて申し訳ありません。

#### 《参加者Cさん》

本題は掘貫の四車線、それに関連したことでお願いするわけですが、先般6月末に玉島の役所の方と町内の主な役員の方とで最終的にいろいろな詰めをさせて頂きました。もともとは産業道路とはいえ、生活道路として長く使っておりました。夏から急に四車線に変わり、転宅を余儀なくされまして、その後すぐ道路に面した所の出入りの安全確保や、コミュニティハウスに安全に行ける所をどうしたらいいかとまとめているわけです。町内も240件と、アパートが46件、今は286件の大所帯になりました。水玉道路のすぐ北側にあたりまして、人口も世帯数も西と東に分担された形で今、生活しています。最終的な一番の問題は、コミュニティハウスに行くまでの道筋であり、安定面を考えて今日は要望書を一応作ってきておりますので、後で事務局の方に渡しますので、よく見ていただいて宜しく申し上げます。

それと、音楽関係でいい市民会館も内装されまして、非常に快適に聴かせていただいておりますが駐車場の少ない所に問題がありまして、いつもちょっと遅れて行きますともう入れなくて隣のアイビーの所も満車になっていることがあります。願わくば二階建ての駐車場をしてもらえれば車がもう100台ほど置けると思いますので、その100台が別に置けるか置けないかでものすごく違ってくるので、是非ともお願いしたいと思います。

#### 《市長》

掘貫線の道路に関しましては、要望書をいただいたので、後でしっかり拝見いたしますし、安全面については一番何より重要だと思います。産業道路については、これから新しく国が決めてくださって玉島と水島の橋が架かるようになります。地域で今の所、トラックと住宅の車が一緒になって同じ道を通っていたのを分けることで、交通渋滞や交通事故も減る方向になると思っています。玉島ハーバーアイランドと水島、玉島の地域の交通に本当に掘貫線は大変大切なものだと思いますし、ハーバーアイランドの工場の誘致は、これから必ず県と一緒に進んでいきたいと思っています。常日頃から一生懸命誘致をしていますが、新規産業のようなものが来てもらえればと思っていますけども、そういう面でも掘貫線は非常に大切だと思っていますし、安全面でしっかりやらせていただきたいと思っています。

市民会館の駐車場は、この度改装をした時に随分良くはしたつもりではあるんです。これまでバスと車が一緒になって、動線が入り組んでいたのを解消して入りやすくはしたつもりなんですけど、まだまだ台数が少ないというのが課題だとは思っております。それから臨時の時には西小学校の運動場なども開放してもらったりしているんですけども、この混雑解消についてはこれからも引き続きしっかり取り組みをしたいと思っております。

《参加者Dさん》

今度の市民交流センターについて、みなさんがたくさん活用されて有効なセンターになると思うんですが、現在文化センターでちょっと大きなコンサートがあると大変道が渋滞しております。現在も北と南にしか出れませんので、もしたくさんの方が来られる時にどう渋滞を緩和していくのか、どういう策を考えているのかをお聞かせいただきたいことが一つ。

それからお願い事ですが、市民交流センターを造るにあたってワークショップであったり、勉強会であったり、なかなかみなさんにご参加いただけない所もございまして、テーマが悪いんだらうか、何をテーマにしたらいいんだらうかといつも考えているんですが、市の方からも声掛けをしていただいて、「地域力を活かすまちづくり」をみなさんで考えることができるような勉強会になればいいと思っていますので、市の方からもよろしく願いしたいと思います。

それから、景観の方も少し気を付けていただいた道路作りをしていただけたらなと思います。よろしく願い致します。

《市長》

まずは新しくできます市民交流センターの車の出入り、渋滞になるのではないかといいことでございます。今地域のみなさまからと先日も議会でご質問をいただきまして課題だと思っています。これまでの都市計画道路がもっと北の方にありますが、まだ進んでいないのが現状です。その中で、来年度中には新しい支所の近くの場所で人がこれまで以上に集まっていただけることを私どもも期待をしておりますので、なんとか東西が抜けるものが作れないかと今、交流センターが出来るのと合わせて検討をしている所です。また検討状況は地域のみなさまにご相談をしたいと思っております。

ワークショップについてはしっかり市の方からも呼びかけをさせていただきたいと思っております。

《参加者Eさん》

倉敷市のし尿処理について聞きたいんですが、今農業をしている所が長尾と船穂の間なんです。そこの新幹線の下へ船穂のし尿処理の中継点があるんです。タンクがいくつかあって、一部はトタンで囲いをしておるんですが、囲いをしてない所もあります。そこへバキュームカーが来てタンクへ入れるんですが、冬はいいんですけど、夏はとにかく田舎の香水のにおいが激しいんで農業をしても頭が痛くなるような状態です。船穂の関係のバキュームカーが来てタンクへ入れて、それを大きいタンクローリーがし尿処理の関係へ持って行っているかと思うんですけど、それをすぐにバキュームカーがし尿処理関係の所へ持って行く方法はできないでしょうか。これは長崎や長尾の方からも要望が出ている

件かと思われるんですが、お願いします。

《市長》

し尿の処理の集め方は今の所地区ごとでそれぞれに計画をして、それぞれ集めて持って行って中継するようになってきていると思います。おっしゃっている所がどうなっているのか今ちょっと分からないんですけど、よく担当部局の方からも話を聞きまして地域からのご要望を上げていただいているんですかね。

《参加者Eさん》

前々から長尾の長崎という町内から、10年前からその話がありましたから、伝わっていると思います。あそこは船穂の処理場で、その境に持ってきているんです。それが今度是一緒になりましたので、よろしくお願いします。

《市長》

し尿の処理の点については本当に地域のみなさまにご迷惑をかけていると思うんですけども、無ければならないものでもあり、それをどこに置くかというのは本当に非常に難しい問題だと思います。前からもずっと要望をあげていただいていると伺っておりましたので、その点からも含めてよく検討をさせていただきたいと思います。

《参加者Fさん》

玉島のことが勉強したくて地域学部という所に今進学をしているんです。高校時代から、まちなみ保存地区や乙島祭りとか、先ほど市長さんがお話ししたものを情報発信してきているんです。その中でまちなみ保存地区について、「地域力を活かすまちづくり」といった時に、住民の方が自ら動いて、こういうまちづくりがいいんじゃないかと考えることが重要だと思うんですけど、実際今まちなみ保存地区の方で若い方々がいろいろ取り組みをされている中で観光地へ外から人に来ていただく以前に、どうもこのまちなみ自体が守れない現状があるように思うんです。ある方が蔵を2個持っているが、どうしても市のお金がおりにこずに今すぐにでも倒さないと崩れてしまうということで、一軒は泣く泣く壊してしまったという現状です。でも一棟については今どうにか残せないかと頑張っている。個人の財産だと思うんで、なかなか市の方では難しいとは思いますが、外から人を呼ぶ以前に、やはりまちなみをどれだけ守っていくか、建物自体をどれだけ守っていくかという所で疑問に思いました。

《市長》

また具体的な場所を後で教えていただけませんか。まちなみ保存地区や倉敷市の伝統的建造物郡保存地区は、それぞれに厳しい規制がかかっていまして、その分、改修をする時に市の方から補助金が出る制度があります。ただそれも予算の範囲内になりますので、申請が出てきた分だけ今年度に必ずできるということでは今の所ないわけです。本当に予算が全般的に厳しいんですけども、まちなみの部分についてもなんとかもうちょっと市の予算が、拡大できないものかなと思っております。といいますのは実は先日6月1日に、美観地区のところが国土交通大臣の、「美しいまちなみ大賞」をもらうことができました。

これはそのまちが美しく残っているというのと、それからその地域の活動がいろいろ評価をいただいたということがあったんですけど、まちなみ保存地区は玉島や児島地域でも、もっと活動ができないかと思っています。ただ、現状でやはりこれまでの所でも家を壊されたりしている部分もかなりあるということなんで、どうすればいいのかなあと考えていまして、これから取り組みをしていきたい政策の大きな一つであります。倉敷の美観地区だけでなく、今あるものとしてしっかり頑張ってもらいたいと思っているんですけど、玉島のまちなみ保存地区、児島の下津井地区とか、そういう所のまちなみは本当にとぎれとぎれにはなっていますけれども、いいものが残っているので、文化都市である倉敷はやっぱりこのまちなみの部分にもっと力を入れるべきだとまだ考えている段階です。

《参加者さん》

シルバーの方に毎朝早くから新倉敷駅の両脇にある駐輪場の整備をいただいているわけなんですけども、これらの方々はみなさんお昼で帰られるので、夕方には市外から帰ってくる人、それからまた市外に出て行く人、ここがものすごく乱雑になっていますのでシルバーの方を夕方にもちゃんと入れていただきたいと思います。一つは駐輪場が狭いので、J Rとご相談していただいて駐輪場のスペースを増やしていただく、あるいは2階建てにしていいただければと思いますので、よろしくをお願いします。

《市長》

その駐輪場は、朝と夕方で随分ばらばらになっていて、駐車台数も足りないんですか。

《参加者Hさん》

西の駐輪場で7時から12時まで4名で整理整頓の仕事をしているんですけども、私らが帰った後、昼から誰もおられない、そしたら自分の自転車を出すのが精一杯で、邪魔になる人の自転車を蹴り飛ばしてでも踏んでも、自分の自転車を担ぎ出していると聞きます。自転車・オートバイの置く台数に比べ置く面積が全然狭くてどうにもならない。現場を見てくれたら分かるように、みなさん帰られる7時、8時ごろが無茶苦茶です。それが今の現状です。

《市長》

駐輪場がそういう状況になっているということは今日始めて伺いましたんで、確かに駐輪場から出てこられる方は多いなとは思ってたんですけど、そこまで踏んでいってるとは思ってなかつたので、1回私も見まして、それから駐輪場の担当の課にもよく話を聞いて、打ち合わせしたいと思います。ただJ Rとの話もあるんで、とにかくまず一回よく見えます。混んでいるのは夕方7時くらいに行ったらいいんですか。

《参加者さん》

朝9時半から10時ごろには満車になります。無茶苦茶になるのは夕方6時からです。

《市長》

夕方6時から8時に行って見ます。



《参加者Iさん》

地区社協の会長会議やコミュニティの協議会の総会の中でいろいろお話やお願いする中で、お互いに同じように地域活動を推進してほしいというお願いがあって、その奨励のために補助金や助成金をいただいております。その補助金を見ても福祉協議会の方とコミュニティ協議会の方に同じようなメニューがあるわけです。三世代交流の事業とか、私たちは両方の補助金をいただいて合算して行っていますが、いくら外郭団体といっても福祉協議会の事業に対して、任せっきりもいいんですけど、重なっている部分も目的も同じだと思いますので、市民活動を推進する、安心安全な地域を作るためにみなさん方に頑張ってもらいたいということでいろいろと助成をしていると思うんです。お互いに聞いてみても市民活動推進課の職員と地区社協の担当の職員が話し合いをした形跡もないし、調整もできていないし、同じように歩調を合わせたような指導もできていないし。お互いにそういうふうな活動を進めているのですから、お話を調整する機会があってもいいんじゃないかと考えます。私たちも、コミュニティと社会福祉協議会の事業を仕分けしてやっているのですが、お金を両方からいただくのはありがたいけども、同じ行政がやっている「福祉協議会は外郭団体だから私たちはそりゃあタッチできん」と市の方と言われるかもわかりませんが、市として、福祉協議会としてお互い話し合いをする必要があると思います。これは担当者の話ではなく、上の方の話だと思いますので、福祉協議会のやっている地区社協の事業と補助金の扱い、そして市民活動推進課がやっている事業と補助金の扱いをもう一度合算してお互いに職員同士、担当者同士がよく話し合いをして地域のほうに戻してもらいたいと考えます。

《市長》

しっかり話ができているということが実態で、受ける方は一つでも出す方がばらばらだからということですよ。

《参加者Jさん》

なるほどいつもそう思っています。市の方と社協の方とわれわれと一緒に介してそういうことを1回勉強させていただきたいと思っています。ワークショップじゃないけど、市の方と社協の方とわれわれと市長さんも入られて、補助金をいただくのは結構なんだけど、厳しいところもあるので、もうちょっとお考えいただきたいと考えます。

それからこの地方では乙島祭りという素晴らしいお祭りを毎年行っております。一昨年は市長さんにお祭りの日にお越し頂きました。昨年は大きな大変なことが起きて、市長さんお越しいただけませんでした。今年はまたぜひお越しいただくように、ご要望はまた後ほど。それから、今年も乙島祭りが10月30日、31日ですが、31日の晩には相当の数の方が来ます。車に乗って来るので、県民局の公安局などにもお願いして駐車場をお借りしています。それから市の方も漁業組合の南側の私有地を今売りに出しているんですが、まだ相当残っていると思います。三年も、そこを市有地で売りに出している所を財産活用課へ1日貸していただくようお願いに行きまして、貸していただきました。しかし、もう草がこれくらい生えてるんです。われわれも草刈をして、市の局長さんまで来て草を刈っていただきました。昨年、活用課の方だと思うんですけど、「売りに出している

んだけども草ぼうぼうではいけないんで、一年に一回草刈をする予定にはしているけど、祭りに合わせて来年は刈るようにしましょうか」というお話は聞いたんですけど、その方がいらっしゃればいいけれども、今年の3月で辞められていたり、よそへ転勤されていたらもう駄目ですし、こういうことがございますので、市の方も万全の体制でご協力をお願いしたいと考えております。

《市長》

乙島祭り、今年はなんとか参ります。

《参加者Kさん》

先日27日に海岸の一斉掃除がありまして、市長さんにもおいでいただいてありがとうございました。東と西で、昨年拾い上げたごみが一日で1トンだそうです。それが本当に綺麗になったと思うんですが、梅雨の大雨が降りますと川上から流れて、また海岸に打ち上がってまいります。そうすると、全員ではありませんが、気持ちがある人が何人か出て拾ってステーションに出しているんですが、生活ごみが入らないくらい、川上からナイロン類、発泡スチロールや缶、瓶がいっぱい流れてきて浜に打ち上がるということです。どうすればいいかと思ひまして、倉敷市の市民にはもちろん、川上の市町村の方にも市の方から声を掛けていただいて、ポイ捨てを止めていただきたい。自分是一只だと思っても、市民の何人かになりますと、里見川、高梁川、いろんな川に出てまいります。川に捨てても今度はいつ大雨が降って海岸に打ち上がってくるかと思っております。綺麗にしていないと、また遊びに来た人たちもごみを捨てて帰るようになりますので、近くの者で気をつけておりまして、朝や夜にナイロン袋をもって歩いて拾うようにしております。海岸に上がってくるだけじゃなくて瀬戸内海が汚れていると思いますので、よろしくお願ひします。

《市長》

本当に大きなことを言っただいてありがとうございます。これは27日でしたね。沙美の海岸は日本最古の海水浴場でありますし、日本の渚百選の一つで、本当に綺麗な所ですので、まずは地域のみなさまが毎日お散歩しながらごみを拾っていただいているのは本当にありがたいと思ひます。年に1回、沙美の瀬戸内海のごみを拾うのもあるんですけど、それだけじゃなくて上流の市町村にも確かに声掛けをした方がいいですね。今度また市町村会議などがありますので、その時に高梁川とか他の川もそうですが、そういうことをみんなでやりましょうという話をお互いにしたいと思ひます。

《参加者Lさん》

水島の橋が架かるのは何年くらいですか。国がやるので分かったら教えてください。できるだけ早い方がいいです。

もう一つは、倉敷市もいろいろやっていますが、岡山市も倒産しかけてるんですけど、国や夕張のようにならんように、倉敷市はまだ大丈夫ですか。

《市長》

まず玉島との間に架かる橋は、一応もともとの最初の計画では平成27年度を目標にす

ると国は言っております。ただ、今回去年から民主党政権になりまして、コンクリートから人へということがあります。今の所は今年の平成 22 年度の予算にはつけていただいているんですけども全体の国の公共事業の割合が何十パーセントか圧縮されておりますので、橋の部分を作る距離が一年分ずつが圧縮されてしまう可能性がありますので、もともとの平成 27 年度くらいにできるかどうかは分かりません。場合によっては何年かは国の予算の都合で伸びるかもしれません。

倉敷市の財政状況ですが、岡山県は非常に苦しく、岡山市も政令指定都市になりましたが、割と苦しいわけですが、私が見る所、倉敷市は岡山県や岡山市よりはいいと思います。ただ去年一昨年から比べて、景気のことでも水島コンビナートを始めとする市税収入は一昨年は 850 億円あったんですが、それが今年は 750 億円に、100 億円が 2 年で減ってしまったんです。市の一年間の全体の予算はだいたい 1550、1600 億円くらいで、1600 億円の内 850 億円が市税だったんですが、一年で入ってくるのが 750 億円に減りましたので、ここ何年かは非常に苦しいなどは思っております。ただ、コンビナートの状況は必ずよくなると思っておりまして、市によって今は景気が悪くなって市税収入が下がったから、市のいろんな事業もそれに応じて今は全部止めとこうという人と、先を見て今、仕事がない時に学校の耐震化の工事とかを逆にお願いをしてこの時期を乗り越えるのに役に立ってもらえるようなことをして、コンビナートを始めとする景気がよくなってきたら市がどんどん仕事をお願いしなくてもいいかと思っておりますので、今の所倉敷市は苦しいんですけども、なんとか中空飛行くらいで行っています。岡山県のような財政危機とかにはならないように今、頑張っていると思います。

《参加者Mさん》

今までの要望は全部お金を使うような話だったんですけど、倉敷市は ISO14000 取っていますよね、インターネットを見させていただいたんですけど、コピー用紙だと 3 千万枚、それが一枚 1 円だからせいぜい 3 千万円ほどですよ。数字が出てたんですけど、1500 億円に対していえば数字やコスト的には人がかけたわりにはメリットがあまりできてないんじゃないかというのが一つと、もう一つはガソリンや軽油も環境の中に目標に入れられてると思うんですが、数字的に見ると増えてるんですよ。本来 ISO は下がらないと駄目なんです。でも、倉敷市の場合、上がってるんですよ。だから中身をきっちり検討してないんじゃないかと思えるんで、その辺を減らしていかないと、今の要望からするとコストがかかるばかりなんで、もう少し下げて欲しいなど、ひとつの要望的なものもあるんですけど。あと値段的にはそういう数字じゃなくてコストが高いやつをテーマに目的目標にして下げていかれた方が下げられるんじゃないかと思うので、お願いを含めて検討していただきたいと思っております。

乙島の祭りも一つの数値目標で、バスが何台も来て、観光や祭りに来て、玉島のまちなみの観光のコースに入れてバスが連なるとか、何らかの形で数値目標にしないと、適当な形で玉島の祭りだとかまちを綺麗にしますと言ったときにコストだけかかって、お金が落ちてこない状況になるので、きっちり数字を出した上で検討して欲しいと要望を含めてよろしく申し上げます。

《市長》

環境の面では倉敷市はISOという環境の世界的な基準をとっておりまして、毎年結果を公表しております。コピー用紙などについても市でも一生懸命両面コピーをしたり、書き損じのものについては4分の1に切って電話対応のメモ用紙にしたりといろいろ細かくはやっているんですけど、なかなかその成果が飛躍的には上がっていないのも一つの現状だと思います。原因についてしっかりと分析をして施策を進めていかなければいけないと思いました。それから目標ですが、お祭りにしても、市の政策にしても、市民のみなさんが参加してくださる人数はこれくらい増えたとか、知っていただいている割合はこれくらいに増えたとか、観光客の人はこれくらい増えたというのをなるべく目標を作るものを増やしていこうと思っていますので、一挙に効果が出るものと出ないものがあるかと思いますが、なるべく分かりやすいものやっけていきたいと思っています。ありがとうございました。それでは予定の時間が参りました。今日は本当にたくさんご意見をいただきまして本当にありがとうございました。ここを見に行っただ方がいいという時間帯も教えて頂いて、よく分かりました。やっぱり地区の方にお伺いをして地域の方々に教えていただけることが多いなど分かりました。今日は本当にありがとうございました。